

学校だより

四日市市立八郷小学校発
平成24年2月28日発行

《 No.30 》

【学校評価の分析】

八郷小学校では、「めざす子どもの姿『かしこく あたたく たくましい子』」を育てるため、5つの重点目標を設定し、年間を通して教育に取り組んできました。この5つの重点目標に照らして、保護者の皆さんや子どもたちの評価・アンケートを比べ、次のように分析し、自己評価としました。



《重点目標》

① 問題解決能力（確かな学力）の育成

- 4年生以上の学年の算数を学習のねらいに応じて3学級を4つにした授業、朝学習、宿題を含めた家庭学習の取組み、夏季休業中に全教員で指導する算数学力補充教室など、基礎・基本の学力の定着に努めた。

保護者アンケート「学校は基礎・基本の学力を身に付けさせようと努めている」に対して92%の肯定的回答が得られたのは、こういった取組みが保護者に認識していただけたものと考えている。

- 教師の研修テーマとして「学び合う」活動に取組み、教育活動・指導の改善を行った。授業での課題の設定やわかりやすい黒板の使い方・発問の工夫、話し合う場・聞き合う場の設定、ペア学習・グループ学習の導入など、互いに「話す・聞く」ための手だての工夫やスキルの指導に努めた。

児童アンケート「普通の授業では学び合う活動をよく行っていると思うか」=80%の肯定的回答があり、子どもたちは授業中に展開されている「学び合う」活動を実感できているものと考えられる。

また、豊かな言語力・表現力の向上を図ることをねらいとした「一分間スピーチ」の取組みを進め、発達段階を捉えた指導方法の整理を行った。今後は、豊かな言語力・表現力を向上させ、問題解決能力の向上に結びつける活動まで高められるよう「学び合い」を深めていく必要がある。

- 「自分から進んで家庭学習に取り組んでいるか」=児童83%の肯定的回答に対して保護者60%とギャップが見られた。今後は、学校での授業と関連させながら子ども自ら進んで家庭学習に取り組めるような宿題や課題の出し方など、指導の工夫や家庭への啓発が必要であると考える。



② 豊かな人間性の育成

- 学校や学級のルールの徹底、人を思いやる気持ちを大切にすること、みんなのために活動することのすばらしさを一人一人に理解させた上で学級づくりに努めてきた。道徳では学級の実態に合わせ、心の素地になるようなことや学級での身近な問題などをテーマに指導を進めた。また、あさけワークスなどの地域の福祉施設での交流や障がいを持った人との交流を通して、福祉教育の充実に努めた。児童会では東日本大震災の支援の取組みを進めた。

これらの取組の結果、保護者アンケート「学校は豊かな心を持った子どもに育てようとしている」=86%の肯定的な回答、児童アンケート「人を思いやり協力して活動することができているか」=92%の肯定的回答があり、一定の成果が得られたものとする。

児童アンケート「自分のよいところを知っているか」=79%の肯定的回答があったが、自尊感情にやや弱さを感じられるため、引き続き本校の取り組むべき課題として捉えたい。

- 様々なゲストティーチャーの指導や多くのボランティアの支援をいただくことは、子どもたちにとって教師・保護者以外の大人とのコミュニケーションの機会となり、あいさつやマナーなど社会性を豊かにすることにもつながっていると考える。

- 児童アンケート「学校で友達に会うのが楽しい」=97%、「いじめは絶対にいけない」=97%の高い肯定的回答があることから、今後も本校の進めてきた教育の方向性を継続していきたい。しかし、少ないながらも否定的な回答をせざるを得ない状況にある子どももいることから、今後も様々な調査方法の活用やスクールカウンセラーとの連携などを一層進め、心のサインの気づきを大切にしながら心に響く指導に努めていきたい。

③ 健康な心と体の育成

裏面に続きます

- 養護教諭・栄養教諭の専門性を生かし、健康や食に関する指導を計画的・継続的に行った。
保健委員会の児童アンケート「自分の健康は自分で守る」＝91%、「健康のためには 食べ物に気を付けたい」＝84%の肯定的回答があり、子どもたちの健康や食に関する高い意識が見られる。今後は、生活リズムの質的な向上を図るためにも、子どもたちへの指導の充実とともに保護者への一層の啓発を進めていきたい

- 体育の時間には運動量の確保に努めるとともに、運動会の組立体操やリズム、業間駆け足や大縄記録会などを活用して体力づくりに努めた。

しかし、児童アンケート「運動や外遊びは好きか」＝84%の肯定的回答に対し、保護者アンケート「自分から進んで外遊びをしているか」＝73%にとどまっていることから、家庭での運動・外遊びの習慣を持たない子どもたちも少なくないと考えられる。

そういった子どもたちに対して、学級遊びの時間を設け、学級のみんなで外遊びを行うことなど、意図的に楽しく運動に取り組む機会を設けたり、季節に応じた昔遊びに触れさせ、遊びの幅を広げたりする取組を進めていきたい。また、業間駆け足や大縄記録会の取組みを単発のイベントに終わらせることなく、これらを機会とし継続的に運動に取り組めるよう仕組む必要がある。

④ 地域・家庭との協働の推進

- 学校運営協議会を年6回開催し、教育活動のあり方や運営方法、学校評価などについて協議し、地域に根ざし、地域とともに育てる学校づくりを進めてきた。環境・図書・教科・クラブなどのボランティアによる支援や八郷安全部会による登下校の見守りなど、地域・保護者のみなさんには様々な分野で本校の教育活動にかかわっていただいている。

保護者アンケート「コミュニティスクールとして学校・家庭・地域が協力・連携して、子どもの教育や通学の安全にあたっている」＝昨年度93%、本年度94%と安定した高い肯定的回答があり、コミュニティスクールとしての活動が定着してきているといえる。

- 児童アンケート「今住んでいる地域の行事に参加しているか」＝76%の肯定的回答ではあるが、全国や県の調査結果と比べると高い結果となっている。八郷地区は地域全体で子どもたちを育もうとする気運が醸成されており、まちづくり委員会や地区社協などの地域活動団体が子どもたちを巻き込んだ取組の結果によるものと考えている。今後も、地域行事に子どもたちが主体的に参加・参画できるよう学校としてできる役割を果たしていきたい。

- 情報の公開については、参観日や懇談会などを月一回程のペースで仕組んだり、学校だより・学年学級通信、HP等で学校の様子や子どもたちの姿を知らせたりすることで、学校教育に対する保護者・地域のみなさんの理解と協力を一層深めていただけるよう努めてきた。

保護者アンケート「学校の取組や様子を授業参観・自由参観・学校だより等を通して積極的に知らせようとしている」＝昨年度95%、本年度97%の肯定的回答があることから、こういった学校の取組について保護者にも十分認識いただけたものと考えている。

⑤ 教員が自己研鑽に励む学校づくり

- 日々学年間で相談し、共通理解を図りながら授業や活動に取組んだり、学校づくりビジョンの実現に向けて各指導部会が「具体的な取組の進め方」「子どもたちの姿の変容のイメージ」「取組みの成果を確認するための指標の設定」について検討を進めたりするなど、組織的に遂行した。

- 校内研修については、「互いに学び合う子どもたちの育成」～一人ひとりの考えを生かす授業～をテーマに全教師が授業を公開し、「仲間づくり」「授業づくり」などについての実践レポートをまとめ、自己相互研鑽に努めた。

児童アンケート「授業は分かりやすいですか」＝97%、保護者アンケート「学校は授業の改善に努め、分かりやすい授業づくりに取り組んでいる」＝82%の肯定的回答があり、一定の評価が得られたものとする。一方で、この設問に対する保護者の「分からない」との回答が7%と多いことから、授業改善への取組についても保護者に一層の理解が得られるよう情報発信のあり方工夫をしていく必要がある。

- 県外の先進校視察や各研究協議会への積極的な参加に努めた。一方で、先進的な実践事例に学び、本校に適した形で導入し、授業改善に結びつけるための取組が必要である。

- 日々の業務に追われ、ゆとりのない状況で仕事が進められている現状がある。



改善方針

- 本年度は、これまでの教育活動や学校経営の強み・弱みを明らかにし、新しい学校づくりビジョンに中長期的に取り組むべき方向性を明確に示した。初年度の取組として各学年・指導部で「具体的な取組の進め方」「子どもたちの姿の変容のイメージ」「取り組みの成果を確認するための指標の設定」について検討を進め、全校体制で取り組んできた。C R T（観点別到達度検査）、児童・保護者アンケート、教職員自己評価などの結果を総合的に見ると、新しい学校づくりビジョンの方向性として概ねよい評価が得られているものと認識している。次年度は、本年度の取組の結果から具体的な指標を設定し、継続的・より発展的な取組を進めていきたい。
- 「学び合い」については、手だての工夫やスキル、指導のあり方の研修に止まらず、先進的な実践事例に学び、「学び合い」が豊かな言語力・表現力を向上させ、問題解決能力の向上に結びつける活動まで高められるよう研修を深めたい。
- 「あゆみ」については、より分かりやすいものとなるよう検討を進めてきたが、保護者アンケートでも改善の要望もあり、指導と評価の一体化の取組を進める中で、引き続き子どもの学習状況の伝え方について検討を進めていく。
- 本年度も「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学校・家庭協働部会でも「家庭学習」「お手伝いの見直し」「あいさつ」について協議を進めるなど、家庭学習を含めた生活リズムの質的な向上について取り組んだ。次年度は学級懇談会や家庭教育講演会についても同じテーマで行うなど、一年を通じて機会あるごとに啓発を進めていきたい。
- コミュニティスクールの取組については定着してきているが、運営協議会と拡大委員会の役割を明確にするなど、組織の改善に取り組みたい。また、学校と地域が連携した防災計画の策定や地域人材を活用した学習資料室の運営にも取り組みたい。
- 次年度は学級数の減少のため職員数も減少する。より効率的・組織的に校務を遂行するため、校務分掌組織の再編に取り組みたい。また、例年通り行われている学校行事や児童会活動、地域と連携した活動などの意義やねらいを問い直し、各学年の年間学習指導計画への位置付けを明らかにしたい。

